

日本生活指導学会第39回研究大会（オンライン大会）

（高知大学）プログラム

【重要】第39回高知大会の開催方式の変更について

学会 HP でも第一報をお伝えしましたとおり、7月23日に緊急理事会において高知大会の開催について検討し、Zoomによるオンライン開催（高知大会）とすることが決定いたしました。

オンライン開催では、大会日程・内容に変更はございません。大会参加費は、会員は無料、臨時会員（非会員）は1000円とします。

参加希望の方は、学会 HP の 8/5 の記事「第39回高知大会の開催方式の変更と参加申込につきまして」に記載されたフォームまたは下記アドレスから、9/9（木）17時までに申し込みをしてください。

<https://forms.gle/PdxLsTjqNZVARBum8>

参加申し込みをされた方には、9/10（金）の午後に、参加方法や発表要旨集録に関するメールをお送りします。

申し込みなどオンライン大会に関するお問い合わせは onlinejasg@gmail.com までお願いします。

大会実行委員長からのごあいさつ

大会実行委員長 加藤 誠之（高知大学）

日本生活指導学会第39回大会を高知大学で開催させていただくことになりました。本学は旧制高知高等学校等を母体として、1949（昭和24）年に新制大学として発足しました。南溟寮（男子学生自治寮）寮歌「豪気節」に「南の御国は土佐の国／革命と自由の生まれし地」と歌われるとおり、自由民権運動の精神を引き継いでおります。月の名所桂浜・最後の清流四万十川など豊かな自然にも恵まれております。小砂丘忠義の流れを汲む作文教育も盛んで、今日でも各種教職員サークルが活発な活動を行っております。

コロナ禍のためオンライン大会となってしまいましたが、実りある大会になりますよう精一杯頑張らせていただきます。どうぞふるって御参加下さいますようお願い申し上げます。

大会概要

【大会実行委員会】

委員長 加藤 誠之（高知大学）

E-mail: kato-masayuki@kochi-u.ac.jp TEL: 088-844-8394

問い合わせ先：日本生活指導学会事務局内 オンライン大会担当

E-mail: onlinejag@gmail.com（オンライン大会担当）

jagsoffice@gmail.com（学会事務局）

【期 間】 2021年9月18日（土）～9月19日（日） *9月17日（金）理事会

【会 場】 オンライン ※ミーティングルームのURLは申し込みされた方にお知らせします。

【参加費】 大会参加費：一般・学生会員 無料 臨時会員 1,000円

【日時】

9月17日（金） 17:00～19:00 理事会

9月18日（土）第1日目

9:30～12:30 課題研究A，課題研究B

13:30～14:20 総会

14:30～18:00 全体会

9月19日（日）第2日目

9:00～12:00 自由研究発表

13:00～16:00 課題研究C，課題研究D

17日 (金)					17:00-19:00 理事会	
18日 (土)	9:10- 入室 可能	9:30-12:30 課題研究A・B	昼食	13:30-14:20 総会	14:30-18:00 全体会	
19日 (日)	8:40- 入室 可能	9:00-12:00 自由研究発表	昼食	13:00-16:00 課題研究C・D		

全体会 9月18日(土) 14:30～18:00

「コロナ時代」における公教育機関としての学校の在り方を考える
—求められる「指導・支援・ケア」像と多職種協働をめぐる課題に即して—

子ども・若者の人間的な成長・発達を励ます場であるはずの施設や機関が、逆に子ども・若

者の身体的・精神的自由を奪い、人間的尊厳を傷つけているケースも、決して珍しくない。教育（学力）格差、不登校、いじめ、体罰、ハラスメントといった問題群が浮上する学校空間は、その一つの典型といえるだろう。では、なぜこうしたことが起こるのか。それらはどのような構造（メカニズムや力学）によって引き起こされているのか。この構造的問題をどのように解消（あるいは緩和）させていくのか。

全体会では、こうした問いを、特に新型コロナ感染拡大期での長期休校措置に伴う生活の個別化と学習をめぐる格差拡大、家庭でのDVや虐待等の増加といった問題に注目して考える。さらに、これらについての検討を通じて、「新しい学校の日常」とも形容される「コロナ時代」の学校に求められている「指導・支援・ケア」とはどのようなものであるのかを浮かび上がらせてい。

以上の問題意識から、以下の3つの論点を軸に検討していく。

(1) こんにちの子どもや保護者が必要としている指導・支援・ケアとは何か。コロナ感染拡大のもとで、子ども、保護者が学校に求めているものは何か

(2) こうしたニーズと、指導・支援・ケアを実践する側にいる保護者、教職員、専門職・機関（SSW、SC、保健医療、児童養護施設等）が直面している現実的な諸課題とのあいだの緊張関係や制度（構造）的問題等をどう捉えるのか。

(3) (1)と(2)の検討をふまえつつ、どのような指導・支援・ケアのあり方を追求していくのか。その実現に向けた職場の合意形成や多職種協働をどう設計し、発展させていくのか。

報告者 : 池田 佳代子 (高知県公立中学校 教育学)
佐々木 千里 (SSW 京都市SSWスーパーバイザー等 児童福祉)
コメンテーター : 松田 洋介 (大東文化大学 教育社会学)
熊澤 千恵 (椋山女学園大学 看護学)
司会 : 春日井 敏之 (立命館大学 臨床教育学)
照本 祥敬 (中京大学 教育学)

課題研究A

9月18日(土) 9:30~12:30

青少年の親密圏について問いなおす

近年、スマートフォンの普及に伴いSNSなどの新しいコミュニケーション空間が現れてきている。このような変容は、それを直接用いる年齢だけではなく、小学生を含む全世代の生活世界の在りようを再編していった。バーチャルな公共圏の拡大とともに、親密圏のあり方も大きな転換点を迎えつつあるといえる。一方では個人の自由な活動は拡大されているが、他方では統制できないリスクが散在しており、それに対する対応枠組みが未整備であるという問題も生じている。

これまで、青少年の心身の発達において、親密な他者との関係の重要性が指摘されてきたが、そこで前提とされてきた対面する関係はもはや自明のものではなくなっている。教育現場においても遠隔授業が広範に取り入れられ、「友だち」の概念にはIT空間上の接点だけで顔さえ知らな

い相手まで含まれるようになっていく。

そのような中で、過度に同質性を求め未知の他者を排斥する方向や、SNS 上で濃密なコミュニティを作り出していく方向など、親密圏のあり方も多様化してきており、それらが絡み合いながら新たな生きづらさが生じてきている。青少年を取り囲むネット上の親密圏が過度に同質化していくことで、公共圏が縮小していき逃げ場がなくなっているからである。

本課題研究では、小学生と中・高校生を例に、現代の青少年の親密圏のありかたについて、SNS の拡充を背景にした IT 空間上の対人関係と、現実場面での対面的なそれとの交錯する地点から検討を試みる。

報告者 : 原田 真知子 (元小学校教員 教育学) 『『親密であること』を奪うものは誰なのか』

: 村澤 和多里 (札幌学院大学 心理学) 「青少年の対人関係の悩みと SNS」

コメンテーター : 藤井 啓之 (日本福祉大学 教育学)

司会 : 船越 勝 (和歌山大学 教育学)

課題研究 B	9 月 18 日 (土) 9:30~12:30
---------------	--------------------------------

若者の「事件」等が問いかける自立の問題と社会的サポート

人が社会的に自立するには、大まかな仮説として①他者に出会い認められ見守られる人間関係の軸、②小さなことからでも一緒につくったり計画したり活動したりする社会参加の軸、③自分の目標を持ちそれに向かう自分(自分らしさ)を確かめられる将来展望の軸の三つが必要である。今までに起きた若者の「事件」等にかかわる諸事案は、現代社会と支援・指導の関係を探る私たちにも向けられた鋭い課題を含んでいる。そこから「今、若者の自立をどうとらえ、どうサポートするか」を読み解く機会をもつことは当学会の学際性にとって時宜にかなう有益なことと考える。

当分科会では、まず思春期・若年女性の自立をめぐる困難な実態や少年院の支援の取組について報告をしていただき、これらを踏まえつつ、「事件」に至った当人の境遇や関係性について考察し、20~30 代の若者による「事件」やその背景の自立困難が何を意味するかなど、若者の自立をめぐる社会の深層の読み方、「ケア」や「支援」のあり方を参加者と共に考えたい。

報告者 : 加藤 弘通 (北海道大学 心理学) 「思春期・若年女性の自立をめぐる困難」

森 伸子 (名古屋矯正管区 矯正教育) 「少年院における自立支援の取組から」

折出 健二 (元愛知教育大学 教育学) 「若者の『事件』から見える自立の問題」

コメンテーター : 羽間 京子 (千葉大学 司法福祉)

司会 : 折出 健二 (元愛知教育大学 教育学)

白井 利明 (大阪教育大学 心理学)

課題研究C 9月19日(日) 13:00~16:00

被虐待体験や精神疾患等配慮の必要な事情のある子ども・若者への自立支援について ～社会的養護を終え社会のなかで自立している子ども（ケアリーパー）へのアフター ケアや少年院における社会復帰支援を中心に～

社会的養護を終え社会のなかで自立している子ども、中でも特に、被虐待体験や精神疾患等を抱えるケアリーパーには、アフターケアとして経済面のサポートだけではなく、就労や学業の継続を下支えする生活全般にわたる長期的なサポートが必要である。少年院在院者についても、同様の事情を有し、処遇面の配慮や福祉的な支援が不可欠など矯正教育・社会復帰支援に困難な課題を持つ者が多い。

このような困難な課題を抱え家族からの支援も得られない子ども・若者への自立支援の現状と課題について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響も踏まえ、検討していく。

- 報告者 : 越智 萌 (NPO 法人丸亀街づくり研究所アフターケア事業所わかっか)
「アフターケア事業所の現状と課題 わかっかかの活動を通して」
三瀬 裕子, 平田 哉 (丸亀少女の家)
「被虐待体験や精神疾患等を抱える在院者への働き掛けについて」
- コメンテーター : 楠 凡之 (北九州市立大学 教育学)
羽間 京子 (千葉大学 司法福祉)
- 司会 : 浦田 雅夫 (大阪成蹊大学 児童福祉)
森 伸子 (名古屋矯正管区 矯正教育)

課題研究D 9月19日(日) 13:00~16:00

地域にねざした学校—高知県での取り組みから—

子どもの数の減少を理由として、全国各地で学校統廃合が進められている。小規模校において地域住民とともに取り組まれている学校づくりは、そうした統廃合の動きを批判的に捉える視点を提示している。大会開催地の高知県において取り組まれてきた実践の報告をもとに、地域住民の生活と深く結びついた学校づくりの意義と課題について考えたい。

- 報告者 : 門田雅人 (四万十町立米奥小学校元校長、安和地区集落活動センター教育・協働部会長)
- コメンテーター : 木戸口 正宏 (北海道教育大学釧路校 教育学)
- 司会 : 南出 吉祥 (岐阜大学 教育学)
杉田真衣 (東京都立大学 教育学)

自由研究発表 9月19日(日) I・II 9:00~10:25 / IV・V・VI 10:35~12:00

I 終末期を迎えた高齢の親の死を受容することの困難さ ～成人期の子どもへの理解と支援～

発表者 御手洗 みどり (山口大学)
司会 白井 利明 (大阪教育大学 心理学)
コメンテーター 熊澤 千恵 (椋山女学園大学 看護学)

II 学習の持つ遊び性について—ホイジンガ及びカイヨワの遊び論を手がかりとして—

発表者 ○ 竹村 泰央 (高知県立希望が丘学園) 、 加藤 誠之 (高知大学)
司会 浦田 雅夫 (大阪成蹊大学 児童福祉)
コメンテーター 福田 敦志 (大阪教育大学 教育学)

III 発表取り消し

IV 保育職志望の若者の早期離職経験に関する質的研究

発表者 市原 純 (北海道大学)
司会 楠 凡之 (北九州市立大学 臨床教育学)
コメンテーター 杉田 真衣 (東京都立大学 教育学)

V 昨今の学校教育における教員自身の心の健康とケアについて～学校教員が心を壊すことなく働き続けるために～

発表者 近藤 賢司 (元岡山県公立小中学校教員)
司会 舩越 勝 (和歌山大学 教育学)
コメンテーター 折出 健二 (元愛知教育大学 教育学)

VI 生活困窮者自立支援法の学習支援と地域生活指導運動との共通点

発表者 土屋匠宇三 (大東文化大学・一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク)
司会 片岡 洋子 (元千葉大学 教育学)
コメンテーター 南出 吉祥 (岐阜大学 教育学)

【お願い】

オンライン大会では総会を開催する予定でおりますが、議事を円滑に進めるため、事前にメールにて質問を受け付けます。同封いたしました大会議案書についてご質問のある会員は、「第何号議案の、どの個所である」を明示していただき、大会当日の昼休み終了までにメールにてお願いします。

日本生活指導学会理事会

メールの宛先 学会事務局 jasgoffice@gmail.com